

(4) 内分泌疾患領域

葛 谷 英 嗣

ENDOCRINE AND METABOLIC DISORDERS

Hidetsugu KUZUYA

高度専門医療施設である国立京都病院を中心とした政策医療ネットワークを駆使して、1) 国民病として国の対策が急務となっている糖尿病、2) 診断・治療に高い専門性が要求される内分泌疾患を対象としたレベルの高い臨床研究を行い、日本人に関するエビデンスを集積し、内外に情報を発信する。新しい診断・治療技術の開発を行う。こうして内分泌・代謝性疾患医療の質、アウトカムの向上に貢献していくことが目標となる。本シンポジウムでは、とくに焦点を糖尿病に絞って話をした。

なぜ糖尿病なのか

1) 糖尿病人口が爆発的に増加している

2003年の糖尿病実態調査によると、「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性を否定できない人」をあわせると1,620万人にも達することが明らかとなった。これは成人の1/5にも相当する高い割合である。糖尿病患者調査(1999年度)によると治療中の糖尿病患者は212万人と推定されているので、糖尿病の場合、早期発見が十分でないこと、治療を放置している例が多いことが考えられる。糖尿病対策を考える上で問題のひとつとなる。

2) 糖尿病は脳梗塞や心筋梗塞など心血管疾患の基礎疾患であるばかりでなく、全身に種々の合併症をきたす

糖尿病は透析導入(新規透析導入患者の36.2%)、視覚障害、非外傷性足趾切断の原因の第1位となっている。脳梗塞の患者の53%、心筋梗塞の38%が糖尿病といわれている。冠動脈のバイパス手術を受けるとする患者の約半分が糖尿病であるとする成績も報告されている。合併症は患者の生活の質をすこぶる低下

させる。

3) 糖尿病は医療費にも多大な影響をおよぼしている

2001年の糖尿病医療費は1兆1,743億円(前年度比5.3%)と報告されている(表1)。しかし、これは糖尿病を主病名とする医療費であるので、合併症にかかる医療費を加えると恐らく2兆円を下らない。一方糖尿病にかかる間接医療費を2兆8,000億円と推定する報告がある。

以上のように、糖尿病対策は急務であり、糖尿病を克服する医療はまさに政策医療といえる。糖尿病の克服は心血管疾患の克服にもつながる。

現在進行中の臨床研究

そこで糖尿病の発症予防(1次予防)、早期発見、早期治療による糖尿病の進展の防止(2次予防)、合併症の発症・進展の予防と身体障害の予防(3次予防)が臨床研究の目標となる。糖尿病関係で現在進行中の研究の主なものをあげると、

表1 2001年国民医療費

総額	244,133億円
糖尿病	11,743億円(対前年度比5.3%)
悪性新生物	22,058億円
脳血管疾患	17,874億円
虚血性心疾患	7,571億円
高血圧性疾患	18,758億円
歯科診療医療費	26,047億円

(厚生労働省)

国立京都病院(現:独立行政法人国立病院機構京都医療センター) National Kyoto Hospital 院長

Address for reprints: Hidetsugu Kuzuya, Director, National Hospital Organization Kyoto Medical Center, 1-1, Mukoubata-cho, Fukakusa, Fushimi-ku, Kyoto 612-8555 JAPAN

Received February 19, 2004

Accepted March 19, 2004

- 1) 保健サービスを利用した生活習慣介入による2型糖尿病の予防(厚生科学研究費健康科学総合研究事業): 全国から保健所・保健センター・事業所が参加しての無作為割付による前向き研究である。
- 2) 国立病院・療養所におけるコンピュータネットワークを用いた糖尿病の2次・3次予防に関する多施設前向き研究(国立病院・療養所共同研究費): 未治療の初診患者についてデータベースを作成, 合併症発症・進展に関して長期に渡って追跡, アウトカムにおよぼす因子を明らかにする。
- 3) ヒト糖尿病性腎症に関わる遺伝子の同定(内閣官房・文部科学技術省革新的技術開発推進費): ネットワーク施設から提供された糖尿病性腎症患者, 家族, 健常者からのDNAを解析, 腎症遺伝子を同定し, 蛋白の機能を明らかにし創薬につなげる。
- 4) 糖尿病足病変に関する診療ガイドラインに関する研究(国立病院・療養所共同研究費): 糖尿病合併症の中でもとくに難治の糖尿病足病変の症例をネットワーク施設で収集し, 糖尿病専門医, 循環器科医,

血管外科医, 整形外科医, 皮膚科医, 形成外科医, 放射線科医が共同して糖尿病性足病変の診療ガイドラインを作成する。

今後の課題

待望の臨床研究センターがこの10月1日に発足した。これから全国20の専門医療施設とともに, 十分な成果をあげていくためには, 臨床研究のための環境の整備を行い, 政策医療ネットワークの機能強化を図る事が課題となる。そして国立病院機構が真価を発揮するために, 政策医療分野で十分なアウトプットを出し, 国の医療政策と医療の質向上に貢献していこうという強い使命感を持って進んでいくことがなにより大切であると考えている。

(平成16年2月19日受付)

(平成16年3月19日受理)